

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900131		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋二子		
所在地	千葉県船橋市二子町629-2		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外食や外出の機会を増やし、ストレスをためないよう支援している。</li> <li>・利用者個々のニーズを把握し、個別ケアを実施している。例えば習字の得意なご利用者様に毎日、筆でおしながきを書いていただいている。</li> <li>・お誕生日会は、ご利用者様のご家族を招待し、ご利用者の生い立ちを紙芝居を披露して楽しんでいただいている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. JR下総中山駅から徒歩13分の、閑静な住宅街に立地したホームで、コンビニ・スーパーストア・公園が近くにあり、訪問・買い物・散歩等に恵まれた環境です。</li> <li>2. サービス面では利用者本位を心がけ、年4回家族会開催や多数の家族の協力を得て遠出等を実施しており、家族アンケートでも「家族の話を良く聞いてくれ、柔軟に対応してくれる」と大好評です。又別途本部から年2回家族アンケートを実施する等、サービス向上に熱心な姿勢が見られます。</li> <li>3. 医療面に力を入れており、内科医の月2回訪問診療と24時間オンコール体制、歯科医の週1回訪問、精神科医の適時訪問、訪問看護師の週1回訪問体制が取られているので、利用者は平均年齢87歳と高齢に拘らず、比較的元気に過ごしています。</li> </ol>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や毎月の目標を立て、夕礼時に唱和することで共有している。	理念「その人らしい快適で穏やかなシルバーライフのサポート、心をこめた親切なサービスに努め、地域の人々とのふれあいを大切にする」を掲げ、職員は毎日夕礼時に唱和し、日頃のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	目の前のドラッグストアに買い物に行ったり、近隣の公園まで散歩に行き、地域住民と交流を図っている。	自治会に加入し、地域行事(夏祭り、敬老会、公民館催事)に積極的に参加しています。地域のボランティア(三味線、コーラス、フラダンス等)を受け入れ、運営推進会議に自治会関係者が必ず出席してくれる等、地域に根ざしつつあります。	更に地域に根ざす為に、ホームから地域に直接貢献する働きかけ(介護相談室の開設、介護関係の説明会、介護機器の無料貸し出し等)が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	絆公開研修として地域住民を集め平成26年11月に船橋海神GH、平成27年2月に船橋坪井東で認知症事例研究発表やタクティールケア体験会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見をいただき、スタッフで共有したりサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、自治会関係者、民生委員、在宅支援センター、家族、訪問看護師、管理者で会議を開催し、運営状況、地域交流、外部評価、行事報告、本部アンケート報告等について意見交換して、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	船橋市の高齢者福祉課と連絡とりあったり、いろいろなアドバイスをいただき、ケアサービスに活かしている。	市担当には、必要な都度報告し相談しています。地域包括支援センター職員には、必ず運営推進会議に出席してもらい、情報・意見を収集し、運営に役立てています。又毎月2名介護相談員を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のポスターを事務所に掲げたりユニット会議内で話をするなど、啓蒙活動している。	年間研修計画の中で身体拘束排除の内部研修が有る他、本部主催研修に管理者が参加し、内容を職員に説明しています。交通量が多い道路が近いので、運営推進会議及び家族会で了解を得て、日中も玄関は施錠しており、利用者の気配を見て外に連れ出す等配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを事務所に掲示し、啓蒙活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修は開催しているが、まだ職員の理解が浸透していない為、継続して研修会を開催していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には細かな説明とともに、ご理解と同意を丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体でサービス満足度調査を年に2回、実施しており、いただいた意見を参考に改善している。平成26年9月実施済みでご家族に平成27年2月に結果を送付済み。	家族からは来訪時、電話連絡時、運営推進会議時、家族会(年4回)時に意見・要望を聞き、運営に反映する様に努めています。又本部からも年2回家族アンケートが実施されていて、サービス向上に熱心に努める姿勢が窺えます。	本部からのアンケートがより実効性あるものにする為、利用者・家族・現場の意見を織り込んだ質問項目の設定が期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等でスタッフから常に意見や提案を聞き、エリアマネージャーやエリアの各ホーム長と共有している。	ホーム長は、毎月のユニット会議、全体会議で、職員の意見を聞き、運営に反映させています。又月1回ホーム長会議(エリア別)が開催され、本部エリアマネージャーが職員の意見を汲み上げる仕組みになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎の定期昇給、キャリアアップ制度の導入、お米の現物支給等、スタッフのモチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員向けの研修を始め、千葉エリア・各ホームで研修機会がありスタッフのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成27年2月に船橋市の介護相談員意見交換会に管理者が参加し、船橋市内の特養・老健・グループホームの代表者や介護相談員(傾聴ボランティア)と意見交換を行った。またグループホーム連絡会も定期的に参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本は各ユニットのケアマネ・計画作成担当者がアセスメントを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と計画作成担当者が共有しながら、家族とのやり取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・計画作成担当者・スタッフ・家族とじっくりカンファレンスを行い、支援の見極めを大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とご利用者の絆を大切にしつつ、できる限り行事にお誘いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味仲間麻雀、囲碁を楽しんでいただいている。	家族や友人の面会頻度は比較的多く、友人から届いた絵手紙を居室の壁一面に張っている人、以前活動していた趣味のサークルに職員と共に行ってみる人など、馴染みの関係継続を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	麻雀などの趣味活動や、買い物と一緒に行く仲間など、利用者同士のつながりを特に力を入れて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後のご家族との関係性の継続も続けていけるよう退去後に連絡して近況をお聞きしたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人のニーズ把握に努め、支援できることを目指している。	居室には自分で描いた絵が飾られていたり、ペーパークラフトの作品が置かれているなど、その人らしい生活の様子がみとれます。また意思を伝えるのが難しい場合は、家族からの聞き取りや、本人の表情から思いを汲むよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者・計画作成担当者を中心に、ご家族や以前いらっしゃった施設職員からの情報に傾聴するよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のノートを作り、生活リズムを把握するなど一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議で管理者・ユニットリーダー・計画作成担当者・介護スタッフがご利用者3名ずつカンファレンスを行い、短期目標の見直しや意見交換を実施している。	計画作成担当者は入居の前に自宅を訪問してアセスメントします。家族・本人から得た情報をもとに暫定の計画を立て、入居1ヶ月の様子をふまえて本プランを作成します。毎月モニタリングを行ない、3ヶ月ごとに計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に日々の様子や情報を残して、ケアカンファレンスの際に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスが一元化しないよう、ご利用者やご家族の意見やニーズに柔軟に対応できる準備を日々、おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきサロンに月1回訪問したり、近隣にある複数力所の公園を散歩で利用したりと、地域資源利用と地域交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所が提携している往診医にかかることを必ずしも強制せず、これまで利用していたかかりつけ医を継続していただいたりしている。	現在2名の利用者が以前からのかかりつけ医を受診し、その他の人は月に2回往診専門医により健康をチェックしています。また週1回の訪問看護・訪問歯科は全員が利用し、精神科や整形外科などの専門医の受診には主に家族が対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護を利用しており、日々の体調変化の相談等、体調管理に努めていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際の窓口として、基本はホーム長(管理者)がやり取りを行っている。入退院時やご家族とのやり取りもホーム長が行うルールとしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの指針について、契約時に説明と同意を交わしているが、必要に応じて都度、家族に説明したり、往診医・家族・ホーム・訪問看護でカンファレンスを実施している。	重度化した場合の事業所の方針は入居時に文書で示し同意を得ています。利用者の体調の変化に伴い医師から家族に状況の説明を行い、今後について家族の意向を聞き取ります。看取りを希望すると、ホーム長・ユニットリーダーを中心に医療と連携をとりながらターミナルケアの体制に入ります。	利用者の平均年齢が87歳であること、職員の異動が多いことなども考慮し、ターミナルケアについての研修や勉強会を重ね、職員全員が落ち着いて、不安を感じることなく対応できる体制作りが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今後、災害発生時の訓練を近隣住民にも協力をいただき、実施していきたい。	消防署立会い訓練を含め、年2回の火災訓練(夜間想定を含む)を実施しています。一連の消防機器・設備は完備され、緊急時に直ぐ駆けつけられる職員も4名いる他、隣の広い駐車場を避難先として確保しています。備蓄は3日分あります。	訓練後必ず反省会を開き、実際に向けた改善が望まれます。又最近各種災害が心配される事、避難弱者を抱えている事を考え、訓練を含め関係者で災害について話し合う事と、備蓄(数量・内容)の見直しが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の言葉遣いなど、スタッフには個別に指導を行っている。	守秘義務やマナー・接遇については内部研修を行ない、日々のケアで気づいたことはその都度注意・指導をしており、利用者の尊厳を守り羞恥心に配慮したケアの徹底に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に決めていただくよう、選択肢を準備するようスタッフに指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを優先するよう、できる限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の実施が難しいが、家族で外出の日やご利用者同士での外出の日には、お洒落な洋服を着ていただいたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、包丁で切る作業、味付け、盛り付け、後片付け、食器洗い、食器拭き等、できることを分担して参加いただいている。	調理専門の職員と介護職員がシフトを調整して調理を担当しています。利用者は自ら調理場に立ち、食器を洗ったり、拭いたりとできることを行っています。また毎月の外食の他、お好み焼きやピザ、誕生日のケーキを作ったり、そば祭り・牛井祭りと呼称して利用者の希望に応えるなど、食事を楽しむ工夫もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が立てたメニューを実施し、水分量は記録を付け、スタッフが日々の推移を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、声かけして促したり、介助が必要な方はスタッフが行うなどの支援をしている。また、毎週水曜日に訪問歯科に入っただき、指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記載し、排泄パターンをスタッフで共有している。	排泄が自立している人は半数近くおり、何らかの介助が必要な人は、排泄チェック表をもとにトイレ誘導したり、声かけをして排泄の自立を支援しています。適切な介助により尿パッドが外れた利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きなこ牛乳、ヨーグルト、水分量などに気を配り、なるべく下剤を使わない自力排泄を目標に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	シフト調整及び安全の確保のために、やむを得ず曜日を指定しているが、入浴実施時間はなるべく利用者の希望を傾聴している。	入浴のタイミングは試行錯誤した結果、週に2回のペースで1日に全員入ることによって落ち着いています。拒否をする人はおらず、入浴時間は、湯船につきりながら歌を唄ったり職員とゆっくり話ができる、楽しみな時間になっています。またゆず湯や菖蒲湯で季節が感じられる支援をしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に自分の意思で動くことのできないご利用者様で、昼寝をしていただいたり場所を変えて過ごしていただく等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表は全ての職員が把握できるキャビネットに入っており、理解するよう指導をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者個々の嗜好品や趣味、楽しみごとを把握し、タイミングをみて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩・買い物支援を実施している。	天気の良い日の近隣の散歩や買い物の他、家族と共に浅草やバラ園に行くなど車で遠出をしたり、初詣、桜見物、毎月の外食など利用者の希望を取り入れながら、できるだけ外出できるよう機会を設けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者とスタッフが買い物に行く際、財布を預けてお金のやり取りをしていただくご利用者もいるが、全てのご利用者様に実施は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話やご家族・友人への年賀状や手紙のやりとりも日常的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な環境づくりを利用者とスタッフが協同して行い、居心地の良い空間を目指して努力している。特に玄関の花や庭の植木等を利用者と一緒に入れている。	リビング兼食堂は、明るく、清潔で、ゆったりしており、利用者が居心地よく過ごせる様になっています。季節の花が置かれ、利用者・職員合作の手作りカレンダー・季節表現の折り紙、ぬり絵、利用者手書きの品書き、習字等、季節感・生活感の他、個性・センスを感じます。利用者同士の相性を考え席順にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの設備上、一人になれる空間がないが、ソファに座ってくつろいでいただいたり、居室で一人読書するなどの支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者本人の馴染みの物、タンスや鏡台などを配置いただき、自分の部屋との認識を少しでもしていただけるよう工夫している。	居室は、エアコン、クローゼット、ベッドが備え付けで、利用者はそれ以外の馴染みの物を持ち込んでいます。絵手紙、自作の水彩画、クラフト紙細工等、各自個性豊かに飾っており、室内での転倒防止に、利用者に応じ、布団の床敷き、センサーマット、鈴を付ける等工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての利用者が1・2階を階段で行き来したり、1階のバルコニーに出て日光浴したりしている。		